

りいぶる

No.57
2013. 4



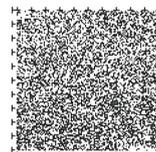
イラスト作者：相馬 匡^{まさ}さん（埼玉県）“りいぶる”開館記念「男女共同参画啓発絵本募集事業」（1998年）
大賞受賞作品『おとうさんのおおきなポケット』作者

目次

- ①② りいぶる★アイ「いつまでも自分らしく！」
 - ・“りいぶる”公開セミナー 坂東眞理子さん講演レポート
 - ・プラチナ世代にインタビュー
- ③ 講座レポート&平成25年度事業案内
- ④ 「元気な和歌山」地域連携支援事業レポート
- ⑤ 地域のチカラ
- ⑥ “りいぶる”図書室
青少年・男女共同参画課 インフォメーション
- ⑦ “りいぶる”相談室



今年12月、“りいぶる”は15周年をむかえます♪





いつまでも自分らしく！

仕事や子育てから卒業した人生の後半戦、かけがえのない一日一日を生きがいや幸福感を持って過ごしたいものです。でも定年を迎えた途端、社会との関わりがなくなった…なんていう話、聞きませんか？

内閣府の調査では、日本の高齢者が近所の人との交流も少ないという結果もあります。（※）

“りいぶる”では、ミリオンセラー『女性の品格』の著者、坂東眞理子さんをお迎えし、家庭や地域で自分らしく輝き続ける“錆びない生き方”について、講演いただきました。

※「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成22年度）によると、近所の人と話をする割合が「ほとんど毎日」の最も高い国が韓国（40.9%）、次いでドイツ（40.5%）、日本は22.7%と最下位。



“りいぶる”公開セミナー

錆びない生き方～プラチナ世代も自分らしく生きる～

坂東 眞理子さん（昭和女子大学学長）

2月17日（日） 有田市文化福祉センター大会議室

人生、後半戦が面白い

約300人の参加者で埋めつくされた会場のなか、ユーモアをまじえながらプラチナ世代（※）を自分らしく生きる秘訣を話されました。はじめに、かつては終身雇用、定年制、年功序列が中心の社会だったが、会社の倒産や合併が増え不安定な社会情勢となった。そうしたなかで「高齢社会は大変」というネガティブな見方が一般的だが、子育てや仕事中心の人生とは違う「出会いを楽しむ」時期だと提案。高齢期を豊富な人生の知恵を生かして過ごすことで、生活の幅が広がる「新たなステージ」と捉えていこうと述べられました。

また、インドの人生哲学を例にとり、30歳くらいまでは人生を学ぶ時期「^{がくしゅう}学生」、次の仕事や子育てが中心の時期「^{かじゅう}家住」を経て、地域コミュニティに生活の中心を移す時期「^{りんじゅう}林住」、最後に心のおもむくまま1人でも楽しむ時期「^{ゆぎょう}遊行」がおとずれると解説。「プラチナ世代はこの『林住』の時期をどう生かすかが大切。人生の『余生』ではなく『後半期』と考えよう。サッカーも人生も後半戦が面白い。年を重ねることをポジティブな視点で楽しんで」と話されました。

いつまでも輝いて生きるには

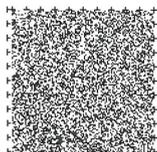
人生の後半期を楽しむ秘訣として、まず、今の自分にできることを考え「等身大の自信」を持つこと。日頃から「笑う」、「深呼吸をする」、「文章を書く」など健康習慣を心がけ、好奇心を持ちストレスとも上手につき合うことで脳をクリアに保つ。女性は特に人に迷惑をかけてはいけなないと思いがちだが、家事や介護も自分でできないところはお金をかけていい、そして、感謝の言葉を忘れずにと話されました。

また、服装は自分に似合うものを身につけ、物を溜めこまず判断力のあるうちに捨てるか人にあげることを。若い世代に自分の経験を伝え、スポンサーになり「貯蓄より^{ちよじん}貯人」の心がけを、と解説しました。

最後に家族関係にふれ、夫婦は距離感が大切でおひとりさま同士が同居していると思うくらいがちょうどいい。子どもにはお金より、自分で判断し行動できる力が持てるように育てることが親からのプレゼントだと述べられました。

参加者から、「いくつになっても、今が人生の中間点と思って前向きに生きることが大切だと思います」「以前から坂東先生の本を読み、働く女性の子育ての難しさに共感していたので、話を聴いて心が軽くなりました。肩肘はらず、時には周りに助けを求めながらこれからも仕事と家庭を守っていきたいと思います」といった感想が寄せられ、人生の後半期を心豊かに生きる多くのヒントをいただきました。

※プラチナ世代：渡辺淳一さんのエッセイ『熟年革命』で出現した言葉。元気で活動的な高齢者をさし、色あせず長年輝き続けるという意味を含んでいる。



プラチナ世代に インタビュー



日々発見、日々感動～地域のなかで生きがいづくり～

いきいきシニアわかやま 事務長 八尾 ^{かずみ}一己さん（和歌山市）

生きがいと仲間づくりを応援するため

「いきいきシニアわかやま」はシニア世代の生きがいと仲間づくりの応援を目的に、2008年4月に県社会福祉協議会（社協）の講習を受けたメンバー8人で発足しました。55歳から入会でき2012年度の会員数は652人を数え、現在、運営委員は14人（うち女性4人）。企画を立て準備から当日の運営、会計までを1人で担当していますが、質の向上と委員も楽しめるように、2013年度からは、3人程度のチーム形式での運営を予定しています。主な活動は、パソコン教室、バスツアー、ハイキング、歴史散策などで、申込みが多数あり毎回抽選するほどの人気です。「開催までは不安が多いが参加者から良かったという声は何より嬉しい」と話されました。最近の紀南地域の会員増加を受け、2012年度は女性2人の運営委員で田辺支部をつくり、支部独自のイベントを実施しています。



現役時代の“上着”を脱いで



八尾さんは、現役の頃から地域で何かやりたいと思い、定年後、様々な活動に参加されてきました。運営委員同士が現役時代の肩書や家庭の事情などを引きずらず、常に対等に話し合える環境が自然にできていること、人材に恵まれていることが長続きの秘訣だと話され、今後ともそうした姿勢を忘れずに活動を続けたいと考えています。

八尾さんは現在71歳。大切にしている言葉は『日々発見、日々感動』。「女性に比べ男性は、若い時に仕事中心の生活で地域につながりがなかった人も多い。きっかけがあればまず地域活動に参加する一歩を踏み出してほしい、そこから新しい何かが始まる」と話されました。

シニア世代を迎える人に、同じ男性として「現役時代の姿やプライドなど、それまでのこだわりの“上着”を脱いで、積極的に地域に入ってほしい」とエールをいただきました。

人生、知らないことは面白い！～錆びない人生の原動力～

^{ひやっけん}熊野百間溪谷自然学校 校長 ^{ゆきこ}伊藤 幸子さん（田辺市）

自然を守り、活かしたい



伊藤さんは自然学校を2007年に設立。親や子どもを対象に体験教室や自然ガイドツアーなどを開催し、学校運営だけでなく各地で体験教室の指導などを行っています。十数年前に和歌山に移住、豊かな自然に魅せられ「語り部」活動などを行っていた頃、地元の人から大塔村の自然を活かしたいと相談され自然学校を立ち上げることに。運営は主に夫婦二人で担当していますが、活動は語り部やインストラクター仲間など多くの協力者と行なっています。

活動の原点は自身の子育て。読み聞かせの活動などから保育士資格を取得、学童指導員としても長年子どもと関わるなかで、子どもにもっと自然と触れ合う機会を、と自然観察指導員や青少年リーダーなどを経験、活動を広げてきました。また1995年には森林インストラクターに登録、当時女性が少ない分野で活躍されました。

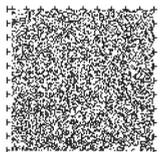
伊藤さんの活動の軸に、いつも『子ども』があります。本物の自然を体験してほしい、地域に子どもたちの笑顔や元気な姿を届けたいと活動を続けています。

新たな世界へ 迷わずチャレンジ

65歳の伊藤さんの原動力は『知らないことは面白い』。興味を持ったならその世界に入ってみる、そうした生き方が多彩な現在につながっていると言います。「私たちの世代は、戦後の激しい社会変革のなかでドラマに富んだ人生を送ってきた。その経験があるからこそ、錆びない人生を送れると思う。これからもできる限り活動を続けたい」と話されました。

活動拠点である熊野や百間溪谷周辺は過疎が進み、一昨年の紀伊半島大水害で大きい被害を受けました。今後は自然を守りながら、若い世代が安定した暮らしができる地域づくりが必要だと考えています。

これからシニア世代を迎える人たちに「知ること、学ぶことの面白さを忘れずに、様々なことにチャレンジしてほしい」とメッセージをいただきました。





“りいぶる”公開セミナー
『愛という名の支配 ～DVを知ること～』
11月25日(日) 県立情報交流センターBig.U 研修室1
講師：竹下 小夜子さん(精神科医、琉球大学非常勤講師)

「情報は力」、セイフティ・プランを明確に



精神科医として被害者支援に関わる講師から、DV被害の実態、加害者の心理的メカニズムと支配の手口、被害者への支援について知る機会となりました。またDVのある家庭では、子どもが直接的、間接的に身体的暴力にあう危険があり、暴力を目撃することで情緒・行動・発達面で悪影響があると解説されました。

講師は、『DVのサイクル』(※)の誤解と弊害について、「緊張期にはガス抜きが必要であるため、コミュニケーションをとるためのトレーニングが必要という間違った発想がある。加害者である男性は衝動的に誰にでも暴力を振るうことはなく、意図的に相手を選択したうえで暴力を振るっているのであり、コミュニケーショントレーニングは不要である」と述べられました。

支援の3原則は、被害者に「あなたは悪くない」と伝えること。被害者のセイフティ・プラン(安全確保策)を明確化すること。保護命令、DV証明や支援依頼など、公的機関(DV相談支援センター)の支援情報を整理し、いつでも提供できるように持っておくこと、「情報は力である」と力強く語られました。

参加者からは、「DVをなくすため社会全体でDVについての認識を深め、意識改革すべき」、「支配するもの、されるものという関係でなく、対等であることの重要さや必要性を話していきたいと思う」といった意見をいただきました。

※DVは『緊張形成期』『暴力爆発期』『ハネムーン期』のサイクルを繰り返すという、アメリカの心理学者レノア・ウォーカーの説。



“りいぶる”シアター
『幸せになるための恋のレシピ』
12月22日(土)
“りいぶる”会議室A



りいぶる特製
「幸せ☆レシピ」

“自分らしい幸せ”、考えてみませんか

本作品は、パリで孤独に生きる主人公の女性が、偶然知り合った同じアパートマンに住む青年たちとの出会いを通じて一歩を踏み出していく物語です。クリスマスが近いことから、参加者には簡単にできるお菓子などを紹介した『幸せ☆レシピ』をプレゼントしました。

上映後は女性限定で映画の感想を出し合いました。主人公が恋人となる男性とセックスしようとするときに、彼女が「コンドーム持っている？」と聞く場面を「大胆だと思った」という感想があり、自分ならどうかと意見交換しました。「フランスの女性は性について自己決定して主張している」「日本だと女性側から言い出しにくい」などリプロダクティブ・ヘルス/ライツ(※)の視点での意見がありました。また、介護やエンディングノート、人との出会いから生き方や考え方が広がることの大切さなどに話題が広がり、様々なメッセージを共有できた上映会でした。

★この作品は“りいぶる”で貸出しています。

※リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：性と生殖に関する健康と権利。妊娠、出産、避妊などについて女性自らが決定権を持つとの考え。



詳しくは“りいぶる”HPをご覧ください。



“りいぶる”25年度事業 自分らしく、学び、つながり、ステップUPを!

「元気な和歌山」地域連携支援事業

地域で想い描く「元気な和歌山」「男女共同参画」を自分たちでカタチにしようと市町村と連携し事業企画を公募、優れた企画は県が支援し、実現していただきます。ご応募を!

りいぶるフェスタ2013

毎年大好評のりいぶるフェスタ、今年も11月中旬、人権フェスタと同時開催が決定!!

有名講師による講演会や、啓発ポスター表彰式、ステージイベントなど。詳細は決まり次第、紙面でご紹介します。

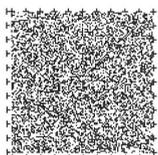
公開セミナー

皆さんの関心が深いテーマや旬の話題から、男女共同参画をわかりやすく学べるセミナーを開催します。

6月の男女共同参画週間には、和歌山市内で開催予定。その他県内でも開催を予定!!

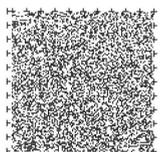
その他スキルアップ講座なども…。

「語り合い広場」、「起業実践セミナー」、「デートDV防止啓発事業」、「男女共同参画相談員養成講座(実践編)」、「DV被害者支援ボランティア養成講座(応用編)」など



「元氣な和歌山」地域連携支援事業レポート

昨年10月から始まった、県内の地域活動団体と市町村とのコラボレーション事業。各地で活気あふれる事業が開催されました。その様子をご紹介します。



平成 25 年 1・17 阪神淡路大震災からの教訓

1月17日(木)

子どもの部：和歌山ビッグ愛1階展示ホール
大人の部：和歌山市男女共生推進センター6階ホール
実施団体：「NPO震災から命を守る会」



子どもの部は、保育所・幼稚園児が卵の殻を敷いた上を歩き、被災時に裸足で避難することの危険さを体感し、大声で助けを呼ぶ訓練もし

ました。また、東日本大震災で被災し福島県から避難された佐藤さん夫妻に、普段の生活で災害時に役立つ習慣を教わりました。

大人の部は、佐藤さん夫妻が自身の被災状況と、普段から災害時の対処を話し合う大切さ、被災者を孤立させない支援の必要性などを話し、災害に備え多くの気づきを得た講座でした。

子どもや孫と一緒に“読み聞かせ”を楽しもう

1月20日(日)

田辺市文化交流センターたなべる2階大会議室
講師：草谷 桂子さん(児童文学者、トモエ文庫主宰)
実施団体：「男女共同参画“レインボー”」



34年間、自宅で本を通して様々な楽しい体験を届ける“トモエ文庫”を主宰する講師から、本の楽しさや読み聞かせのコツなどを

学びました。ジェンダーの視点を大切にした絵本も紹介し、実際に選んだ絵本の読み聞かせをしてくれました。

絵本は、人それぞれ多様な個性を大切にという視点が自然に描かれ、理解しやすいと話され、一緒に参加した子どもたちは嬉々として本の世界に入り込み、大人の参加者は熱心にメモをとる姿が印象的でした。

シンポジウム「男の出番をつくるために」

1月20日(日) “りいぶる”会議室A

講師：宮崎 恭子さん(県女性センター初代所長)
コーディネーター：小原 智津さん
パネリスト：志場 久起さん 鳥淵 朋子さん 吉川 裕彰さん
実施団体：「男の出番をつくる会」



基調講演で講師は、日本の女性政策の経緯や現在の課題を説明。「家族とは『長期に安定し信頼できる関係』であり、時代とともに変わるもの。夫婦とは輝かしき他人、他人として交わり、重さも痛みも、貧もともに背負っていくには何より強靱な自己を持つことが必要」と、家族や夫婦のあり方について第1部で述べられました。

第2部のパネルディスカッションでは、定年後の男性が社会参画しやすく生き生きと暮らすための方法をそれぞれの立場から提案し話し合いました。



地域づくりと男女共生(講演&落語・漫才)

2月2日(土)

“りいぶる”会議室A
講師：春原 麻子さん(元色川百姓養成塾事務局)
実施団体：「わかやま楽落会」

楽落会会員による「男女共生」にちなんだ落語と漫才で和やかな雰囲気の中、横浜から那智勝浦町口色川地区に移住し6年、有機農業と地域づくりを実践している講師が、男女共生の視点から講演されました。

移住者が多いこの地域は、男女の固定的な役割分担ではなく、自分の能力や個性を活かして地元の人と支え合って生活している。これからも地元の人から農作業や生き抜く知恵を学び、次世代に伝えていきたいと話され、参加者は熱心に耳を傾けていました。



ぬくもりのある家庭を築く～子どもが子どもでいられるために～

2月2日(土) 広川町役場3階大会議室

講師：原田 薫さん(CAPセンタージャパン認定トレーナー)
実施団体：「ハッピーママライフ」

16年間、保護者や学校、子どもを対象にCAPワークショップを行う講師から、暴力の定義とCAPの具体的な内容を学ぶ講座でした。

最初に「暴力とは人の心と体を傷つけるもの」という共通認識を持つことが大切と述べ、子どもの力を信じ、暴力にどう対処するかを自ら考えられるように、大人が正しい知識とスキルを学び伝えてほしいと話されました。

後半は、子ども向けワークショップを行い、実際の行動を学ぶ機会となりました。

※CAP (Child Assault Prevention=子どもへの暴力防止プログラム)



地域の子カラ



地域で自分らしく、イキイキと活動する人を紹介しています。

和歌山の女性が遺した“たからもの”を伝えたい

小梅日記(※)を楽しむ会 会長 中村 ^{すみこ}純子さん(和歌山市)

絵本『小梅さんの日記』は、“りいぶる”で貸出しています♪

詳しくはこちら

『小梅日記』との出会い



中村さんは13年前、大学の同窓会で『小梅日記』と出会い、深く興味を持ち4年ほどかけて読みこみました。その後、知人を通じて「小梅日記を楽しむ会」に入会。「和歌山城フェスタ」で『小梅日記』を紹介するイベントや、ゆかりの地67か所を記した「小梅日記ゆかりの地マップ」を作るなどの活動をしてきました。2011年には会長を引き継ぎ、現在会員は

二十数人で男女比は1:2だそうです。

中村さんは、「川合小梅という女性は、自己決定力があり積極的に活動していたイメージで、同じ女性としても魅力的な人」と話されました。

※『小梅日記』は、川合小梅(1804~1889)が、16歳から86歳で亡くなるまで約70年間、幕末から明治にかけての日常生活や社会変革を日記に綴ったもの。現存する主婦日記としては最古級。また県内には、絵の才能があった小梅が描いた掛軸や天井絵も残っている。現存する日記は16年分。

絵本『小梅さんの日記』出版へ

『小梅日記』を多くの人に知ってもらうため、絵本にしたいと「わかやまの底力・市民提案実施事業」(2011年度)に応募し選ばれました。企画・構成・執筆は会員で、作画はわかやま絵本の会が担当、絵本『小梅さんの日記』を出版。3500部まで増刷を重ね、学校や図書館にも寄贈しました。

絵本にするにあたり、「時代や日常生活が見える」「和歌山の地名がたくさん出る」などから選定し作成しましたが、小学校での読み聞かせでは、昔の生活にも興味が持て好評とのこと。また高齢者施設でも懐かしいと喜ばれ、逆に昔の生活を教えてもらい感動したことも。また10月には一般募集した約50人と、ゆかりの地を歩くイベントを開催、今後も春と秋に開催していく予定です。

中村さんは会の活動を通じて、「これからも和歌山の女性が遺した“たからもの”を次世代に伝えていきたい」と話されました。



親も子ども、ともに育て合えるまちづくりにむけて

和歌山県学童保育連絡協議会 会長 川野 ^{えいこ}英子さん(海南市)

詳しくはこちら

和歌山で学童保育の輪を広げたい



川野さんは、“りいぶる”の「託児ルーム保育者養成講座」を受講し子育て支援などに携わるうち学童保育にも取り組むようになりました。現在代表を務める「NPO法人のびのびキッズ海南」は、海南市の委託事業として市内4か所で学童保育所を運営しています。

他府県の研修に参加するうち、県レベルの組織をつくりたいと全国学童保育連絡協議会に相談。1年間の準備を経て2011年6月に結成。現在、学童保育所や保護者など32団体と39人の個人会員で運営しています。会報の発行や県内を5ブロックに分けた研修会と、年1回県全域の研修会を行っています。

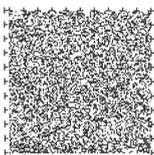
県内の学童保育所は現在176か所、利用児童数は5720人にのぼり、ここ数年で利用が大幅に増えたそうです。活動内容は地域や運営団体によって違い、地域格差が否めない点もあり、連絡協議会では、こうした学童保育の課題解決や指導員の情報共有を行えるように活動しています。

地域全体で子どもを育てていきたい

昨年8月「子ども・子育て関連3法」(※)が可決、学童保育についても様々な改正が見込まれます。このことから川野さんは、学童保育の環境が良い方向に進むのではと期待しています。県内の指導員は、中高年女性のパートやボランティアが多いが、他府県では若者や男性が安定した職業として従事している所もあり、指導員の身分保障や専門性の向上が課題と言います。

最近では、共働きやひとり親家庭など家族の形も多様化し、長時間利用が増加。「学校や親ではなく、学童保育で本音を話せる子もいる。子どもの気持ちに寄り添い、保護者との橋渡しをしながら関わる環境づくりが不可欠」と話され、「子どもは地域全体で『育て合い』をしていくことが大切。就学前を含め学校、地域などすべての大人が連携し、ともに育てるまちづくりをめざしていきたい」と述べられました。

※子ども・子育て関連3法：
平成27年4月からの本格的スタートをめざす。
①子ども・子育て支援法、②認定こども園法の一部改正、③児童福祉法等の改正予定。



☆このコーナーで取り上げた方の詳しい活動内容は、“りいぶる”HPで紹介しています。

“りいぶる” 図書室

“りいぶる”の図書室では、図書3冊、DVDとビデオはどちらか1本、貸出しています。
また、インターネット検索や新聞をゆっくり読むスペース、授乳コーナー（2月に新設）もあります。

大好評!
“りいぶる”絵本の広場
保育つき“読書の時間”



“りいぶる”絵本の広場

12月8日（土） 一時保育ルーム

クリスマスの大型絵本あり、仕掛けいっぱいのエプロンを使った読み聞かせありと、子どもたちに大好評でした。

お孫さんと楽しむ姿も♪

大好評！保育つき“読書の時間”

12/14・1/25・2/8・3/1・8 開催

参加者は、図書室でゆったり読書を楽しみ、お子さんは保育スタッフと元気いっぱい遊びました。『自分だけの時間』でリフレッシュされ、新たな気持ちで子育てを楽しむ機会を持っていただけたようでした。

図書・DVDのご紹介

☆貸出の方法や本の検索など、お気軽にスタッフまでお問い合わせください☆

『うちの子、最高 子どもたちに伝えたい親として、おとなとして、地域として』



著者：熊丸 みつ子
出版社：かがわ出版

子育ては「親だけであるものではない。子どもに関わるすべてのおとなたちが、褒めて叱って伝えていく。10の力をもったひとりのおとなが子どもに関わるより、1の力をもった10人のおとなが関わる、このことが大切」と語る。

子育てを楽しむコツと感動の涙が満載の1冊。

『私たちは繁殖している①～⑪』



著者：内田 春菊
出版社：ぶんか社

著者の日常から子育て、妊娠、出産、女性のからだ、パートナーとの関係、仕事、生き方など広く描かれたコミック集。

破天荒な人生だが、自分自身と真正面から向き合う姿勢に共感し、女性であることから彼女が受けた不条理さを逆にとり発信し続ける強さに、エールを送りたくなる。

『幸せになるための恋のレシピ』（日本劇場未公開作品）

DVD



2007年フランス
監督：クロード・ベリ
主演：オドレイ・トトゥ

母親との関係がうまくいかず拒食症気味の主人公の女性が、二人の男性が住むアパートマンで同居を始める。

それぞれが悩みを抱えながらも、お互いを支え合うことで「幸せ」を手に入れていく。心がほっこりする作品。

青少年・男女共同参画課インフォメーション

県内市町村初!

上富田町が男女共同参画推進条例を制定しました!

和歌山県では、男女それぞれが性別に関わりなく個性と能力を発揮できる男女共同参画社会をめざし、県内各市町村に対し、男女共同参画基本計画及び男女共同参画推進条例の制定を働きかけています。この度、上富田町が男女共同参画推進条例を県内で初めて制定し、平成24年10月1日に施行しました。

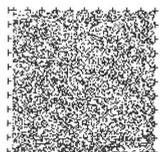
上富田町の条例では、基本となる理念と町、町民及び事業者の責務を定めており、条例の普及や啓発に取組むことで、社会における男女共同参画の実現を促進するとともに、町が実施する施策についても、毎年、男女共同参画の視点から公表されます。

基本理念（第3条）

- 1 男女の人権尊重
- 2 社会における制度・慣行についての配慮
- 3 立案・決定への共同参画
- 4 家庭とその他の活動との両立
- 5 国際的な協調

県内市町村の状況（H25.1.1現在）

	策定・制定済	策定・制定率	全国平均
基本計画	16市町	53.3%	68.2%
条例	1町	3.3%	30.1%



“りいぶる”相談室 相談受付専用ダイヤル 073(435)5246

相談料は無料。専門の相談員がお話をおうかがいします。秘密厳守です。
ナンバーディスプレイは使用していません。

総合相談

家庭や職場のこと、生き方への不安など、様々な悩みや相談に、女性相談員が応じます。

電話相談

☎水木金土○ 9:00～20:30
(受付は20:00まで)

○○○○○日 9:00～17:00
(受付は16:30まで)

面接相談 (予約制・女性のみ)

☎水木金土○ 9:00～17:30
(受付は16:30まで)

○○○○○日 9:00～16:00
(受付は15:00まで)

女性のためのカウンセリング

女性が抱えるこころの問題に、女性カウンセラーが応じます。

面接相談または電話相談

○○○金○○ 13:00～16:40
※第1～第3金曜日

予約制、各日4人まで。
相談時間は1人40分。

女性のための法律相談

夫婦、財産相続、金銭問題等、女性にとって身近な法律上の問題に、女性弁護士が応じます。

面接相談のみ

月4回 13:00～14:50

※日程は“りいぶる”まで
ご確認ください。

予約制、各日3人まで。
相談時間は1人30分。

男性のための電話相談

職場のストレスをはじめ、夫婦・家族・人間関係などの様々な問題に、男性相談員が応じます。

○水○○○○ 16:00～20:00
※第2水曜日

予約優先 (匿名可)
相談時間は1人40分程度



◆発行

和歌山県男女共同参画センター

“りいぶる”

〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛9F

T E L (073) 435-5245

F A X (073) 435-5247

《メールアドレス》 libre@sirius.ocn.ne.jp

開館時間 火曜～土曜：午前9時～午後9時

日曜：午前9時～午後5時30分

休館日 毎週月曜・国民の休日(祝日)

年末年始(12月29日～1月3日)

H Pは“りいぶる”で検索してください。

